



「浦さん」姓の家が軒を並べる漁港宮津浦から、墓の辻の丘を西に越えたところが西泊です。この付近に五戸ほどの近藤家があります。墓の辻にある近藤家の墓に、初代近藤市左衛門の墓があり、漢文の墓誌が書かれています。

三十二文字の短い墓誌を読みくだすと、「姓は藤原で名は信利、針尾嶋において生まる。年少くして京坂に遊び算数学を修む。延寶年間(注・一六七三〜一六八一)宮村に來住し西泊に家を建つ」とあります。

この墓誌を書いたのは、市左衛門の子孫である善三郎で、明治二十九(一八九六)年に建てました。安政五(一八五八)年に生まれた善三郎は、宮村川の河口付近の長畑にあった入浜塩田を宮津浦に移して品質を向上させた、と「佐世保宮地区歴史散歩」(中島雄俊著)にあります。



歌舞伎「忠臣蔵」で知られる播州赤穂は、瀬戸内有数の製塩地帯で、刃傷事件の後取りつぶされた浅野家から、平戸藩は田淵、遠藤など七家を平戸の田平に引き、塩田経営に当たらせました。さらに、慶安三(一六五〇)年には現佐世保市内の日野で塩田を開かせました。

近藤市左衛門の宮津浦入りも、ほぼ同時代の江戸時代初期です。世の中が落ち着いて、人々の暮らしが安定し、食生活での塩の需要が全国的に高まったのでしょうか。

佐世保観光の窓口「佐世保観光情報センター」をリニューアル！



佐世保駅構内にある「佐世保観光情報センター」(三浦町・平成13年12月開設)が、利用者の利便性の向上と案内機能の強化を図るため、9月にリニューアルされました。カウンターの高さをこれまでよりも低くして、イスを設置し、利用者がスタッフの説明を座って聞くことができるようになりました。お客さんが立ち寄りやすく、情報を入手しやすいように資料や展示品が配置されています。佐世保のイベントや観光の情報を提供する「佐世保観光情報センター」を、皆さんもお気軽にご利用ください。



●佐世保観光情報センターの業務内容

観光情報やイベント情報の案内、ホテルなどの宿泊施設や飲食店の紹介、観光パンフレットの設置・配布、佐世保観光のホームページ「SIGHT佐世保」やモバイルサイトへの情報の掲載、定期観光バスの受け付け、地元物産品の紹介等

●営業時間 9時～18時(年中無休)

☎佐世保観光情報センター ☎22-6630

人の動き 10月1日 現在

- 総人口 258,520人(+126人)
男性 121,266人(+105人)
女性 137,254人(+21人)
- 世帯数 105,644世帯(+46世帯)
- ※9月中の動き
転入 641人、転出 508人
出生 210人、死亡 217人

させぼ市政だより

- テレビ(毎週土曜)
NBC・NIB→9時25分～30分
KTN・NCC→11時40分～45分
- ラジオ
NBC 日曜 9時25分～30分
FM長崎 火曜 9時5分～10分
FMさせぼ 火曜10時30分～35分
日曜 9時30分～35分
- 新聞
長崎新聞 毎月第2・4火曜
- ホームページ
<http://www.city.sasebo.nagasaki.jp/>



携帯サイト

歴史散歩 第五六八回 久津浜塩田と近藤家 ●宮津町 撮影・文 ●筒井隆義

近藤家の初代市左衛門は、平戸藩の針尾から大村藩領に移住しており、これは藩としての交渉によって隣藩に移ったと考えられ、その理由は塩田を営むためでしょう。しかし京坂に遊学して修めた算数学は、直接塩田経営に役立つものではありません。

市長日記 / 佐世保の水を考えよう！

東京を中心とする関東地区の大きな水源である利根川水系からの取水制限が実施されました(10月1日現在)。また、9月には利根川水系の上流にある矢木沢ダムの貯水率が10%を切ったことも報じられました。

このような中、最近の佐世保は、一部に集中的な豪雨があったものの大きな災害はなく、適度な降雨量で貯水率も90%前後を推移し、渇水に弱い佐世保市としては恵まれた天候が続いています。

しかし、全国的には異常とも言える気象状況が続く昨今、本市が、かつて経験した悪夢のような大渇水(平成6年から7年にかけて264日間の給水制限、2日間のうち43時間は水が出ない断水も)が再び起こらないとも限らず、私たちは常にそうしたことも想定しておかなければならないと思います。

「水を大切にする日」(平成6年9月6日の給水制限開始日にちなんだ日)であった9月6日、本市ではことしも「石木ダム建設促進市民の会」の皆さんを中心に、市町連、経済、農業、医療福祉など数十団体約600人が参集し、式典やパレードなどを実施しました。

一方、川棚町では、9月19日に町民の皆さん約300人が参加して「石木ダム建設促進川棚町民の会」の集会が開催されました。参加された皆さんなどは、佐世保の利水ということだけでなく、最近頻発するゲリラ豪雨などによる水害から川棚町民を守るため、「川棚町の治水」という面からも、

石木ダムの必要性を訴えておられ、佐世保市としては、大変ありがたく、心強く感じました。



「水を大切にする日」の式典に参加した朝長市長

さて、佐世保市民の中で平成6年の大渇水の苦しみを知らない人が増えていると言われています。平成7年3月時点で佐世保市に住民票があり、今も住民票がある人は約13万人とのことなので、その多くの方は大渇水を体験されたと言えますが、佐世保市民全体から見ると、市民の約半数の皆さんは未曾有の給水制限を体験していない方々であると推定されます。最近、「佐世保市民の大渇水に対する意識が弱くなっている」と言われているのは、そうしたことも要因の一つになっているのではないのでしょうか。

佐世保市民の節水の取り組みは、すでに全国でもトップレベル(1人当たり1日使用量約189ℓ)となっており、今以上はなかなか望めません。そして、老朽水道管の敷設替も積極的に進め、漏水も大きく改善しました。しかし、ダムの貯水量は約75日分しかありません。このことを平成6年の大渇水を知らない市民の皆さんにも強く認識いただき、石木ダム建設促進にご理解をいただきますようよろしくお願いします。

佐世保市長 朝長 則男

徳育通信 ⑧ それぞれの家庭で「徳育ノート」を作らしましょう！

あじさい運動

鹿町地域は佐世保市と合併して3年目を迎えました。今、子どもたちは「佐世保市立鹿町小学校」に違和感はありません。学校のテーマも「ふるさと鹿町」から「ふるさと佐世保」と変えました。

さて、佐世保市の「徳育推進のまちづくり宣言」を受け、各学校においても「一校一徳運動」が推進されています。そこで、本校では「あじさい運動」を宣言しました。

あじさいは、小さな花が寄り集まって、大きく、きれいな花を咲かせます。一人一人の子どもたちが集まって大きな花となる、そんな学校づくりを目指して「あじさい運動」を進めています。また、あじさいは、冬は枯れたように見えながら、春になると再び強い生命力で新芽を伸ばし、緑の葉を広げます。そして、その花たちは日々美しくなります。そのため色を変え、それでも満足せずに、また色を変えて成長していきます。本校の子どもたちも、あじさいのようにたくましく、そして美しく育ってほしいと願っています。

佐世保市立鹿町小学校 校長 都市 賢典



あじさい運動

あいさつは
じぶんから
さわやかに
いつでもどこでも
だれにでも

徳育推進フォーラム

佐世保徳育推進会議の会員が日ごろの取り組みを発表します。市民の皆さんのご参加をお待ちしています。

とき 11月11日(日)13時30分～15時30分
ところ アルカスSASEBO・イベントホール
※申し込みは不要です。

☎佐世保徳育推進会議事務局 ☎23-2856

徳育推進のロゴマークを募集

徳育をより身近に感じていただくため「ロゴマーク」を募集します。徳育推進のイメージにぴったりのロゴマークをご応募ください。
応募期間 11月10日(土)～1月10日(木)
※応募方法など詳しくは佐世保徳育推進会議事務局にお尋ねください。

☎佐世保徳育推進会議事務局 ☎23-2856